

令和元年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書



第1分科会

社会福祉法人 長生福祉会 長生保育園
園長 山本亜紀子

『幼児のための自然体験活動』 ～子どもたちの学びを未来へつなぐ～

1. はじめに

都留市には、私立の3つの認定こども園と1つの公立保育所、9つの私立保育園があります。私立が多いこともあり、各園それぞれが特色を持った園運営をしており、自然豊かな都留の環境を活かし、自然体験活動に力を入れている園も多くあります。また、山梨県においては、「やまなし自然保育導入の手引き」が作成され、幼児期の自然体験活動を「自然保育」と称し、自然を活用した保育・幼児教育を積極的に推進しています。当園でも、昭和27年の創立当初から遊んできた園舎周辺の森や山を活用し、特別なこととしてではなく、自然と自然に触れ合う中でのびのびと自分を伸ばせる環境を提供し、子どもたちの育ちを支えています。

2. 当園の保育目標

当園は、「自然の中で子どもの五感を育てます」を保育の目標とし、

- 身体を使って遊びこむ子ども
- 仲間と一緒に喜んで遊ぶ子ども
- 自分を表現する子ども
- 自分のできる仕事を喜んでする子ども
- 自分の頭で考える子ども

を育むべく、自然と触れ合いながら遊ぶ毎日の中で子どもの育ちを見守り、支えています。

3. 当園の自然体験活動

四季折々変化する自然。保育園から一歩出れば草むら、林、森。一歩踏み出せば、たくさんの発見や驚きがあります。草花遊びに虫さがし、泥んこ遊びや水遊びが子どもたちは大好きです。

○水、泥、砂、太陽などの自然に触れる毎日。暖かい日も、涼しい日も、暑い日も、寒い日も。

お散歩・泥遊び・砂遊び・水遊び・斜面すべり
斜面のぼり・草木染・山菜採り・草花遊び・虫さがし
火おこし・たき火・木の実採り→ジャムづくり
花の栽培・畑・木の伐採と木工など
様々な活動を取り入れています。

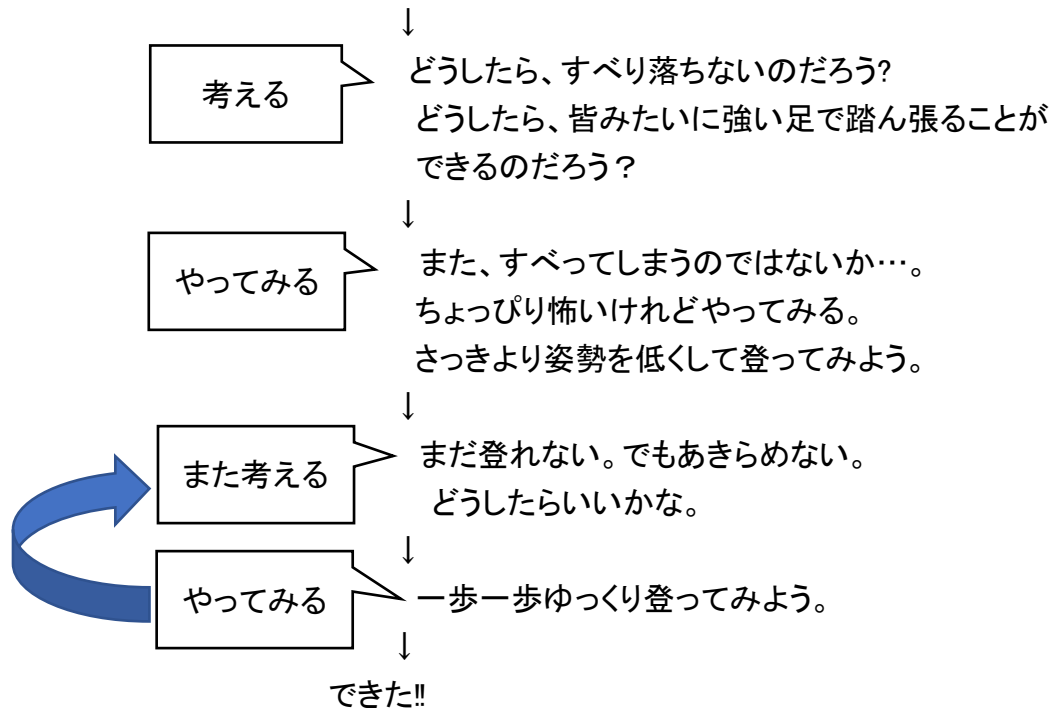


4. 毎日の遊びが育てる力

自然は子どもたちにとって、とても魅力的ですが、人間に都合が良いようにはできていません。だからこそ、子どもたちは、考え、工夫し、そこに学びがうまれます。

例えば【斜面のぼり】

○お友だちはすぐに登れたけれど、私にはなかなか登れない。



○お友だちが声をかけてくれます。助けてくれることもあります。

大人は、教えてあげるのは簡単、助けてあげるのも簡単、でも、できるだけ見守ります。

声かけも必要最低限にします。発達段階を見極め、少し頑張れば達成できる課題を与える(環境を設定する)、危険を回避するのが大人の役割です。

自分(時には+仲間の助け)の力でできた達成感を大切にしています。

○できなかった→考えた→やってみた→でもやっぱりできなかった→別の方法を考えた→やってみた→できた!!

壁にぶつかった→あきらめずに試行錯誤した→挑戦した→できた!!

この積み重ねが、課題を克服する力
(自ら問題を解決する力)を育みます。



○斜面を使った活動では、

足腰を鍛え、丈夫な体を作ること、足の親指を刺激し、脳の発達を促すこと

+

あきらめない強い気持ち、難しいことにも楽しんで挑む力

想像力を働かせ、工夫し、置かれた状況の中で道を切り開く力

友達を思いやる気持ち

このような力を育むことをねらいとしています。

自然の中での毎日、集団の中での毎日 → 自分の思い通りになることばかりではない



でも、

自分で何とかやってみようと夢中になったこと、
一生懸命やったこと、うまくいったことやどうしてもできなかったこと、
自分の思い通りにならなかったこと、それを受け入れたこと、
仲間と協力したこと、けんかしたこと、話し合ったこと、
嫌だったけどやってみたこと、認めてもらえたこと、
友だちをすごいと思ったこと

等々、色々な体験や思いが子どもたちのこころを豊かに育ててくれます。

5. 自然の中で遊ぶ毎日が育てる力

今回は、当園で行なっている自然体験活動の中から、斜面のぼりをご紹介しますが、他の様々な活動の中でどのような力を育むねらいがあるのか例を挙げます。

- ・豊かな感性
- ・創造力(イメージを広げ何かを創り出す力)
何かなければ何もできないのではなく、あるもので必要なものを創り出す力
- ・自己肯定感
- ・興味・関心・意欲
- ・少し難しいこともやってみようと挑戦する力
- ・諦めない気持ち
- ・集中力
- ・協調性や思いやり
- ・責任感
- ・問題を解決する力



これから先、社会に出てそれぞれの環境で苦勞することもあると思います。

「こういう苦勞がありそうだから、前もって練習しておく、やってあげる」事は、いつまでもできることではありません。保育園は、安心して失敗のできる場所です。日々の生活で、苦勞という名の壁を取ってあげるのではなく、壁にぶつかっても諦めず、自分で乗り越える力を付けてほしいと思っています。

6. 学びがつながる先

日々の学びで培ったこれらの力は、**生涯にわたる生きる力の基礎となる力**です。
例えば、小学校1年生なら

- ・豊かな感性、創造力 → 文章題への適応、応用問題を解く力へ
- ・少し難しいこともやってみようという挑戦力、諦めない気持ち → わからない問題へ取り組む姿勢へ
- ・興味・関心・意欲 → もっと知りたいという学習への意欲へ
- ・集中力 → 授業への集中、人の話を聴く力へ
- ・協調性や思いやり → 友だちや先生との人間関係へ
- ・責任感 → 係活動など責任をもって行う力へ
- ・問題を解決する力 → 困った事を困ったままにせず解決する力へ

7. 小学校への引継ぎの方法

○小学校の先生の訪問 ○児童保育要録への記載 ○聞き取り調査での伝達

8. 課題

○引継ぎの機会には、園児の心配な面を中心にお話しています。

○当園は、就学準備として、数字を含めた文字学習をしていません。それは自然体験活動を含め様々な体験をし、感じたことを、文字というツールを持つ前に、言葉で表現する体験を重ねることでより効果的に豊かな感性や表現力、創造力等を養いたいと考えるためです。それゆえに、当園の活動は、遊んでばかりのイメージを与えてしまいがちで、「遊んでばかりで小学校に行って困るのではないか」、と心配する声も聞かれます。

○すぐに結果の見えない、『非認知的能力』をどう伝えていくのかが課題です。

○自然体験活動だけではなく園の保育方針(どのような力を育むのか)を伝える手段を検討することが必要であると考えています。

9. まとめ

幼児期の教育では、数値では表せない『非認知的能力』を身に付けることが重要だと言われています。その方法の一つが自然体験活動です。当園でも様々なねらいがあり、自然体験活動を実施していますが、文字学習を行っていないことから「遊んでばかりいる」「勉強の準備ができていない」との評価を受けています。いただいている引継ぎの機会に当園の保育方針や活動のねらいを伝えていき、小学校に入学後、鉛筆の持ち方から教えていただく必要がある子からすでに上手に読み書きできる子まで様々な段階にある子がそれぞれに自信をもって就学を迎えられるよう努めていきたいと思っています。